

# 学力向上プラン【2学期版Ⅱ】 大分市立森岡小学校 [平成30年度]

## 平成30年度 5年大分県学力定着状況調査より

教科	森岡小	目標値	県平均	偏差値
国語	78.6	68.9	76.4	53.0
算数	71.0	67.4	69.4	52.7
理科	82.3	69.5	73.7	56.1

○平均正答率は県平均を概ね上回っている

●算数の計算の技能や図形の知識・理解の正答率が低い

## 平成30年度 6年全国学力・学習状況調査より

	国語		算数		理科
	A	B	A	B	
本校	75.0	55.0	73.0	57.0	71.0
全国平均	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

(数値はいずれも対全国値)

○国・算・理において全国平均を大きく上回っている

●国語の「話す・聞く」の理解度が低い

## 平成30年度 単元末評価テスト結果より

- 単元末評価テストの目標値に対し達成指標80%以上に達していない学年及び教科に対する取り組み及び50%以下の児童の個別指導の取り組みの工夫が必要である。
- 学年が上がるほど上位層と下位層に分かれており、前学年の基礎基本事項が十分に身につけていない児童がいる。
- 特に達成指標50%未満の児童に対する個別支援を2学期工夫していく(時間と場所・方法)
- 低学力層の児童の多くは生活習慣・家庭学習が確立していない傾向がある。家庭学習の確立と併せて、生活習慣の確立を保護者と共に進める。
- これまで同様、児童の学力向上のため学習規律の確立と教師個人の授業力向上に向け、互見授業等で研鑽を積む。

## 本年度達成指標

学力調査において全実施教科の結果が全国平均(県平均)を上回る  
本年度実施の単元末評価テストにおいて、目標値を達成する児童の割合を80%以上にする。

### 教職員の重点的取組み

- ① 授業改善
  - **めあて**→**課題**→**まとめ**→**ふりかえり**の整合性のある授業
  - **課題設定**及び**学びあい**の工夫・改善
- ② 基礎・基本事項の定着
  - チャレンジタイム及び個別学習の充実
  - 家庭学習の習慣化

### 家庭・地域との継続的連携

- ① 基本的生活習慣の確立  
(早寝早起き朝ごはん定着状況90%以上)
- ② 家庭学習の習慣化・充実  
(家庭学習チェック週3回以上。)
- ③ 学校公開時の授業参観・見守り

### 具体的な取組み

#### 【授業改善】 テーマ**課題(中心発問)・話し合い活動を工夫した学習指導のあり方**

- **めあて**→**課題**→**まとめ**→**ふりかえり**の整合性のある授業
  - 1時間完結型授業(課題とまとめ)の徹底、一人1回以上の互見授業の実践に取り組む。(「大分市授業づくりの5つのポイント」を意識した授業)
  - 授業中に自分の意見を言う場を設定する。(「自分の考え・意見・感想などが言える」と答える児童90%)  
(全体だけでなく、ペア・3人・グループ・活動等の場の設定を工夫し、1時間の中で1回以上自分の考えを発表する機会を設ける)
- **課題設定**及び**学びあい**の工夫・改善(校内研)
  - 子どもの意欲や考えを引き出す課題設定の工夫を行う。
  - 意見交流の場を設定し、全教科においても学びあい活動の充実を図る。(ペア、3人、グループ、活動等)
  - 互見授業・学力向上支援教員による授業観察及び指導助言による授業力向上

#### 【基礎・基本事項の定着】

- 基礎基本事項の定着
  - 単元末評価テスト結果をもとにどれぐらいの子どもがどの程度の基礎事項が定着できていないのかを把握する、特に50%未満の児童に対し**チャレンジタイム**・**昼休み**・**放課後**を利用して**補充学習**に取り組む。
  - 家庭学習の状況を把握し放課後及び昼休み、家庭学習の補助を行う。家庭と連携し週3回家庭学習の点検を行う

#### 【その他】

- 学習規律アンケートを実施し、全校で統一した学習規律の徹底を図る。
- 教育活動全体につなげる道徳教育の充実。
- 様々な体験活動、多様な地域のあり方に触れる機会を設ける。

**学びの土台づくり** ※「学校・家庭・地域の協働・連携 無くしては不可能な事柄である」という認識を共有する

- ① 基本的生活習慣の確立と継続
- ② 学び合える共感的な学習集団の確立
- ③ よりよい食習慣の確立